

一般社団法人 日本応用地質学会
令和3年度・2021 年度
第5回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録(案)

日 時 : 2022 年 2 月 18 日 (金) 15:00~17:00

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、越谷委員、徳楠委員、水野委員、百嶋委員、山下委員、山田幹事

委任状提出: 菊地副委員長、加地委員、昆委員、百瀬委員、安田委員

陪席: 千木良 IAEG Japan National Group 代表、茶石顧問

議事:

1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2021 年 12 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。

2. 理事会報告

- ・令和 3 年度第 8 回及び第 9 回理事会の内容について報告がなされた。
- ・教科書執筆特別委員会に関連して、当該委員長に内容の方向性を確認した上で、英語版作成に取り組むかどうかを判断する。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Newsletter 関連

- ・2022 No.1 の投稿原稿については、軽石災害などを素材として 2 月末を目処に準備を進める。
- ・軽石災害の資料については、国内研究機関の刊行物からの引用を検討する。
- ・募集中の表紙写真について、学会誌表紙に使用した写真やフォトコンテストの題材から選定したものを JapanNG から IAEG へ投稿することが可能か、学会事務局に確認する。

2) IAEG 総会 関連

- ・IAEG XIV Congress 2022 は 2023 年に延期となったが、総会は予定通りに 2022 年 9 月に開催予定である。次期役員選挙の投票が行われるため、次回理事会にて情報共有しておく。

3) アジア各国との交流について

<韓国>

- ・録画動画のIAEGへの Webinar 投稿については、KSEG での公開終了を確認した後に、関係方面への確認を取った上で提供準備を進める。公開終了のタイミングについては、KSEG へ確認する。
- ・KSEG から JSEG への講演受け入れは、コロナ禍が収束する 2022 年度以降とする。来年度(シンポジウム、研究発表会、若手技術者交流会など)に実施する場合は、早めに理事会へ話を通しておく。

<CHINESE TAIPEI>

- ・CHINESE TAIPEI Regional Group の Li-Yuan 代表から回答があり、YEGsのメンバー2名を窓口として交流を進めたいとのこと。今後は、国際委員担当者から直接コンタクトを取ってみる。なお、JSEG 側の YEGs対応メンバーの増員候補についても検討する。

<その他>

- ・今後、各国との交流を活発化していくことを想定した場合、事前に講演協力して頂ける候補者や災害地質

研究部会(60周年特集記事など)の協力を得た上で、発表用素材(英語版PPT)を常備しておくのが望ましい。

4) RMEGV 2021 関連

- ・本ワークショップの準備・開催を通しての課題等について、当該委員長の執筆記事が学会誌に掲載予定とのこと。今後の国際シンポジウム開催時の参考として、国際委員会内でも記事を共有する。

(2) その他

1) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・学会誌4月号の掲載記事について説明がなされた。
- ・次号担当委員は、学会誌6月号掲載に向けた原稿締め切り3月末までに原稿準備を進める。
- ・半年に1回程度を目標に、投稿論文の分野別傾向を分析する。
- ・新スタイルでは翻訳時の担当者の負担軽減のため、原稿は最大2ページ程度とする。内容の一例として、各担当が自身の得意とする業務分野に着目し、同分野での Bulletin 掲載論文の紹介を絡めて、最近の国内動向との比較を行う、など。

2) 海外調査団報告書の著作権チェック

- ・韓国済州島の報告書データについて、公開に向けて準備を進める。

3) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について

- ・来年度の研究発表会での特別セッション応募の申請内容について確認した。提案者に国際委員会顧問を追加した上で、事務局へ応募用紙を提出する。
- ・このセッションは、できれば再来年度以降も継続する方向で検討する。

4) ダイバーシティ推進特別委員会

- ・令和3年度第8回委員会の議事録について説明がなされた。

5) 令和3年度活動報告(案)

- ・活動報告(案)について説明がなされた。
- ・令和4年度の活動方針は、14thARC(マレーシア)の次々回あたりでの日本開催(3巡目)を見据えた活動や、IAEG XIV Congress 2022(2023年に開催延期)へ向けた活動などを踏まえたものとする。

6) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

7) 国際会員情報(メールアドレス不明者)

- ・メールアドレス不明の5名について、引き続き情報収集を行う。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

- ・今後の HP 更新担当のうち、掲載コンテンツの検討は担当委員が主体となって進める。
- ・国際委員会における今後の SNS 活用については、広報・情報委員会の動向に合わせて対応する。
- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や災害調査団写真集コーナー新設(HP)などの対応準備を進める。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・更新状況について確認した。引き続き、必要に応じて更新を行う。
- ・学会 Facebook の投稿者について、国際委員会から担当委員を登録した。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演について今後も継続するため、海外業務の経験豊富なメンバーへの協力を要請する。

6. 重要案件の対応

(1) 韓国・CHINESE TAIPEI Regional Group との交流推進

- ・本活動は、下記(2)とのセット対応も含めて検討する。
- ・CHINESE TAIPEI Regional Group の連絡窓口は、以下の通り。
Dr. Ya-Chu Chiu. (Female) Assistant professor, National Chung Hsing University. clarice.chiou@gmail.com
Dr. Che-Ming Yang. (Male) Assistant professor, National United University. stanleyyangcm@gmail.com
Li-Yuan Fei, the representative of IAEG Chinese Taipei National Group

(2) 若手技術者向けの海外技術関連情報の発信

- ・秋の研究発表会で特別セッションを設け、JSEG 講演者(6名程度)と海外招待者2名(KSEG, CHINESE TAIPEI RG)の発表、パネルディスカッションの開催など。(ダイバーシティ特別委員会との共催も検討)
※セッション開設が承認され次第、招待者に依頼を掛けるようにする。

(3) HP等での海外発信用コンテンツの作成

- ・学会 Facebook の利活用方法など。
※災害調査団速報も含むため、災害地質研究部会への英訳作成協力を要請する。

7. その他

- ・次回委員会(令和4年度_第1回)は、令和4年4月中旬に開催する方向で調整する。

以上